

ズーム・アップ・カメラ・アイズ

# ポン・デュ・ガールの水はどこからどこに？

(フランス南部・ガール県)

## Consultant 会誌編集専門委員会

コロナウィルスが世界に広まる直前の2020年1月中旬、仕事仲間だった数名で「ポン・デュ・ガール」を訪れた。1985年に世界遺産登録された有名なポン・デュ・ガールは、写真などで見たことがある方も多いかもしれない。「ガール橋」と訳される、フランス南部・ガール県を流れるローヌ河支川のガルドン川に架かる紀元50年頃に建設された水道橋である。スペインの「セゴビアの水道橋」やトルコのイスタンブールにある「ヴァレンス水道橋」と共に有名な古代ローマの水道橋だ。普段の年ならば、夏期は橋にちなんだイベントや展示会が開催される。

ポン・デュ・ガールは、上に行くほど幅が狭くなる3層の石造りアーチで構成され、全長は275m、高さは49mにもなる。最上段が蓋付の水路となっていて、最盛期は

毎日3.5万m<sup>3</sup>、つまり毎秒400ℓほどの水が流れていた。現在は見学ツアー以外で水路部分を渡ることはできない。橋の側面に突き出た石は、建設時の足場を支えたものだ。ところで、ここを流れていた水は、どこから来て、どこに向かっていたのであろうか。それは、我々が滞在していたガール県の県庁所在地ニームの市内観光をした際に、知ることとなった。

ニームは、地中海に面した港湾都市マルセイユから北西約100kmに位置する古代ローマからの都市で、当時はコロニア・ネマウスと呼ばれていた。街の名称にもなったネマウスの泉を囲む町として始まった。公園内にある泉は、今もこんこんと水が湧き出ている。中心市街地にある紀元2年に完成した古代神殿は、初代ローマ皇帝アウグストゥスの夭逝した孫二人に捧げられた施設で、保存状態がとても良い。また、ローマのコロッセウムが建造された時期とほぼ同じ1世紀末に建設された2万人を収容できる円形闘技場も往時の姿をよく留めていて、現在も闘牛やコンサートに使用されている。

そして、ニームには黒川紀章が関わった複合施設「コリゼ」がある。観光で郊外に向かう度にその建物を見ることになった。交差点(ラウンドアバウト)の道路間に円形闘技場を模した4棟を建てる計画だったが、2棟建てた後、資金不足などで計画が頓挫したらしい。

そのニームの街中には、1844年に発見された古代ローマの名残りを留めた遺跡、古代分水場がある。その貯留タンクの直径は5.5mで、それに沿った10カ所の配水管から約2~5万人が住むニームの泉や浴場、庭園などに、ポン・デュ・ガールからの水が供給されていた。主要



ガルドン川上流から望むポン・デュ・ガール



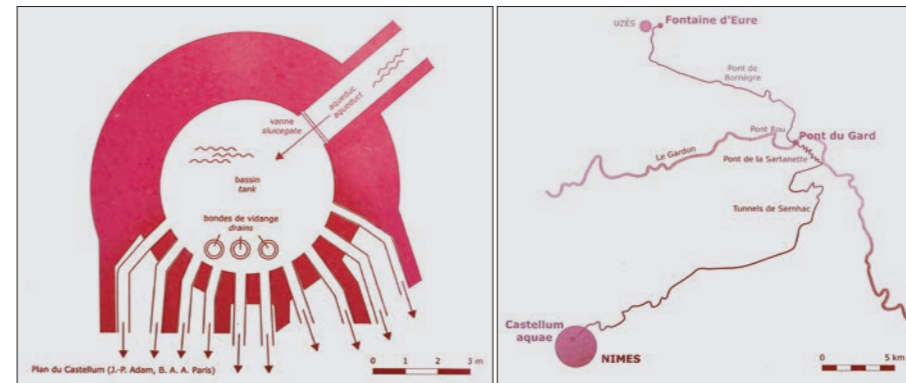
古代神殿の正面



円形闘技場の上部

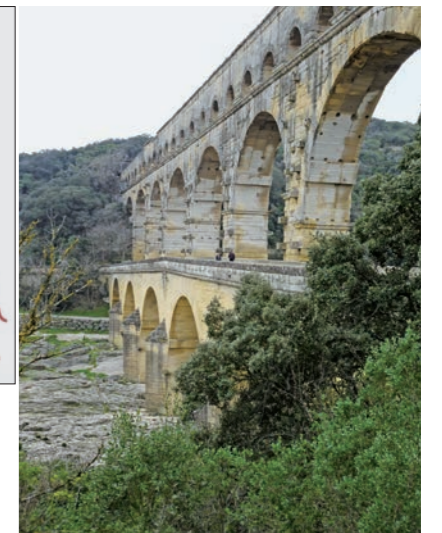
ラウンドアバウトに建つ「コリゼ」の建物

古代分水場跡



古代分水場の配水図(現地説明板より)

水道のルート図(現地説明板より)



新しい道路橋とポン・デュ・ガール

街道ドミティア上にあったことから繁栄した街は人口が増え、ネマウスの泉からの水だけでは不足したため、水道が敷設されたのである。

この水道の水源はニームから北北東に直線距離で約20kmのユゼス近郊の良質なユーレとアイランの泉だった。ルートは自然の障害物を迂回したり横断したため50kmに及んだ。ただ、水源地とニームの高低差は17mなので、平均勾配はわずか0.034%であり、敷設技術の高さが伺える。水道は、近年発見された資料によりクラウディウス帝またはネロ帝の時代に建設されたようだ。

しかし、ローマ帝国の崩壊と他民族の侵入により、ニームとその周辺の人口は大幅に減少し、ポン・デュ・ガールも9世紀頃には使用不能になったようだ。その後、住民は橋の石材を建物などに転用し始める。また、ガルドン川を渡る橋として利用され、中世には通行料も徴収された。さらに、荷を積んだロバの通過を容易にするために、2層目の柱が切り欠かれ、転落防止柵が追加される改変が行われた。これらは橋に大きなダメージを与えることとなった。

1743年、橋の下流に隣接して、ポン・デュ・ガールを模した新しい道路橋を建設することになった。ポン・デュ・ガールに魅了されたナポレオン3世の下、3年をかけて

橋は柱の欠損部も含めて本来の姿に復元された。

世界遺産施設を見る際は、シーズンオフ、特に冬がお勧めだ。道路の渋滞や駐車場の待ち時間、チケット購入の列に並ぶ必要がなく、数組の観光客しかおらず、時間が許す限り施設を満喫できる。難点は、少し寒いことと観光地のお店の多くが休業していることだ。なお、ご心配には及ばず、ニーム市内のレストランはちゃんと営業しており、フランス料理を堪能できる。さて、再訪はいつのことになるのやら…。

(文 塚本敏行)

### <参考資料>

- 1) [THE PONT DU GARD] 英語版パンフレット
- 2) [PONT DU GARD] のサイトマップ
- 3) [PROVENCE] 2014 Ajax
- 4) [Office de Tourisme de Nîmes] ニーム観光局 (<https://www.nimes-tourisme.com/fr/>)
- 5) [世界遺産 アヴィニョンの歴史地区] 2000年12月15日 講談社
- 6) [AB-ROAD] (<https://www.ab-road.net/europe/france/nimes/guide/>)

### <執筆協力>

- 1) 門田尚子 (ニーム在住の通訳ガイド)

### <写真>

- P33上中: 和田淳 左記を除き: 塚本敏行